

証明

図形の性質など、すでに正しいと認められたことがらを根拠に、別のことがらが成り立つことを述べることを^{しょうめい}証明という。

仮定と結論

証明を「 a ならば b 」という形で表したとき、 a を^{かてい}仮定、 b を^{けつろん}結論という。

証明をするときは、

仮定の a と、結論の b がそれぞれ何であるかをはっきりさせ、

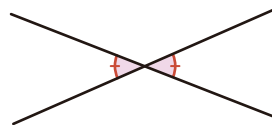
b の結論が成り立つ理由を、 a の仮定から出発してすじ道をたてて述べる。

証明の根拠

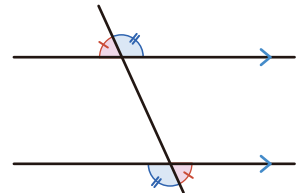
証明では、結論が成り立つことを述べるための根拠として、次のような図形の性質が多く使われる。

証明の根拠の例

・対頂角は等しい。



・平行線の錯角・同位角は等しい。



・三角形の内角の和は 180° となる。

・三角形の1つの外角は、それととなり合わない2つの内角の和に等しい。

・合同な図形は、対応する線分の長さ、角の大きさはそれぞれ等しい。

・三角形の合同条件

3組の辺がそれぞれ等しい。

2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい。

1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しい。

